



## みずくさ しろ こな もの なが なん 水草のそばを、白い粉のような物が流れていたのは何なの

### みずくさ かふん 水草の花粉

みずくさは、たいてい夏に花を咲かせ、花に飛んできた虫が、花粉を運んでくれて、種ができます。でも、中には、花粉を水面に散らし、川などの水の流れて、めしべまで花粉を運んでもらう植物もあるのです。水の深さが50センチメートルぐらいの所に生える、セキショウモは、その代表です。

セキショウモは、水底の土に根をはり、アヤメの葉のような細長い葉を水中にのばし、全体が水中にもぐっている植物です。め花をつける株と、お花をつける株が別々で、め花だけが、ひよろひよろのびて、水面に花(つつのようで花びらはない)がういています。お花の株は、水底の根もと近くの、卵のような形をしたふくろの中に、小さい花がたくさんついています。お花がじゅくすと、ふくろが破れて、小さい花が次々と水面にうかんできます。

### みず なが りよう かふん ち 水の流れを利用して、花粉を散らす

水面にういたお花から、たくさんの花粉が出てきて、水に流されていきます。その中で、運のいい花粉だけが、め花にたどりついて、種を作ることができます。小さい花粉は、粉が水にういているように見えます。花粉がついため花は、くきが、ぜんまいのようにくるくるまいて、水底近くにすずみ、種がじゅくしていきます。

クロモも、同じようなしくみで、花粉を水に運んでもらって、子孫をふやす仲間です。

(監修・矢野 亮)

